令和元年度の発掘調査の成果をいち早く公開！

令和２年度　沖縄県立埋蔵文化財センター　企画展

発掘調査速報 2020

2020 年
8/12 (水) ⇒ 9/13 (日)

最後のページに講座のお知らせがあります。

目　　次

ご あ い さ つ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

令 和 元 年 度 発 掘 調 査 実 施 箇 所 一 覧・・・・・・・・・・・2

楚辺親見原（そべおやみばる）遺 跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

中 城 御 殿（うどぅん）跡（県 立 博 物 館 跡 地）・・・・・・・・・・・・・・・8

普 天 間 石 川 原（いしかわばる）遺 跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

伊佐上原（いさうぃばる）遺跡群 A 地点・伊佐上原南（いさうぃばるみなみ）遺跡・・・・・・・・・・・・・・・16

キャンプ・シュワブ 海域文化財分布調査・・・・・・・・・・・・・・20

県 内 出 土 遺 物 保 存 処 理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

沖 縄 歴 史 年 表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

発 掘 調 査 の き っ か け（契 機）と は・・・・・・・・・・・・28

文 化 講 座 の お 知 ら せ と 注 意 事 項・・・・・・・・・・・・・29

凡例

1. 本書は、沖縄県立埋蔵文化財センター企画展「発掘調査速報 2020」を補完するものとして編集した。
2. 許可なく本書の複製及び転載、複写を禁ずる。

ごあいさつ

沖縄県内には、貝塚、グスク、集落跡、近世墓などを含め約4,700カ所の遺跡が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、先人たちが残したこれらの埋蔵文化財の発掘調査を行い、考古学的見地から検証した成果を沖縄県の歴史・文化の解明や研究に役立てています。

通常、発掘調査が始まってから、土器や石器などの出土遺物を整理し、報告書を刊行するまでには数年の歳月を必要とします。そこで当センターでは、発掘調査で得られた最新の成果を、いち早く県民をはじめとする多くの方々に見ていただきたいとの思いから、前年度に実施した発掘調査の成果を展示公開する「発掘調査速報」展を毎年開催しています。

今年度は当センターが、2019（平成31／令和元）年度に実施した読谷村の「楚辺親見原遺跡」、宜野湾市の「普天間石川原遺跡」、「伊佐上原遺跡群Ａ地点」、「伊佐上原南遺跡」、那覇市の「中城御殿跡（県立博物館跡地）」、名護市の「キャンプ・シュワブ海域文化財分布調査」の計６つの遺跡の発掘調査の成果を出土遺物や写真パネルなどを通して紹介します。また石垣市白保竿根田原洞穴遺跡から発見された白保２号人骨のデジタル復元レプリカや、中城御殿跡（県立博物館跡地）から出土した遺物の保存処理も紹介します。

本展を通して、多くの方々が遺跡や遺物などに接し、先人たちの暮らしに想いを馳せるとともに、沖縄の歴史と文化に対して親しみを持ち、その価値や重要性について理解を深める一助となれば幸いです。

令和２年８月１２日

沖縄県立埋蔵文化財センター
所　長　　瑞慶覧　勝利

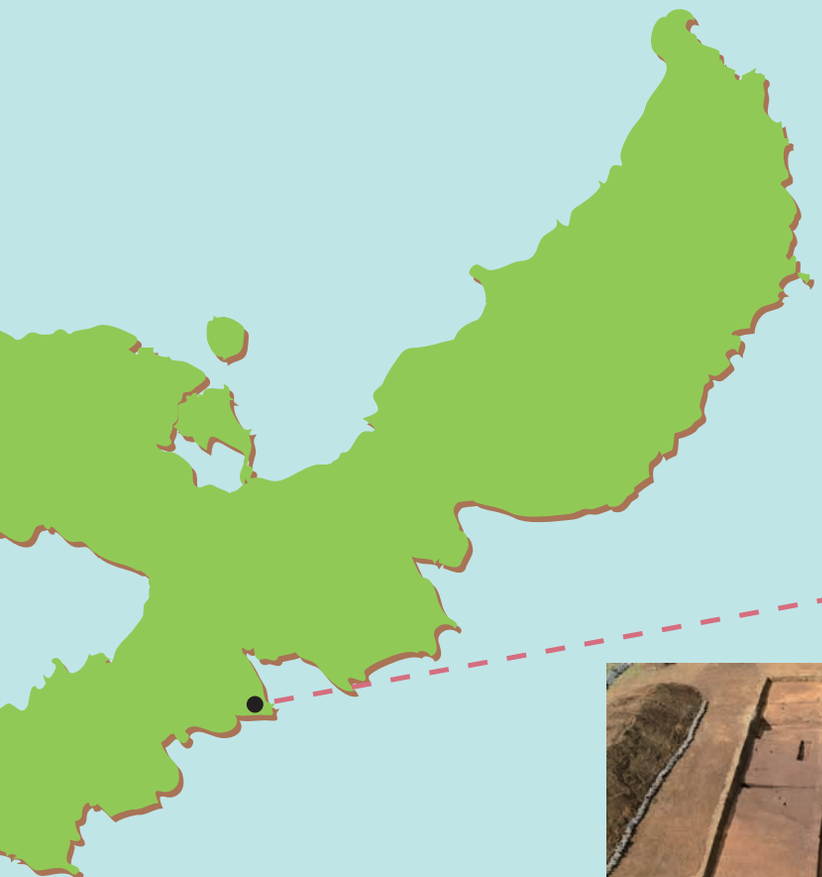
◆令和元年度 発掘調査

伊佐上原遺跡群 A 地点（宜野湾市）

伊佐上原南遺跡（宜野湾市）

普天間石川原遺跡（宜野湾市）

査　実施箇所一覧



キャンプ・シュワブ海域（名護市）

楚辺親見原（そべおやみばる）遺跡（読谷村）

中城御殿跡（県立博物館跡地）（那覇市）
（なかぐすくうどぅん）

楚辺親見原遺跡（そべおやみばる）

縄文時代、近代

Data

事業名　トリイ通信施設内発掘調査　　所在地　読谷村字楚辺（トリイ通信施設内）
調査期間　令和元年 10 月 30 日～令和 2 年 2 月 19 日
調査面積　約 1,404㎡（A区：288㎡、B区：576㎡、C区：540㎡）

はじめに

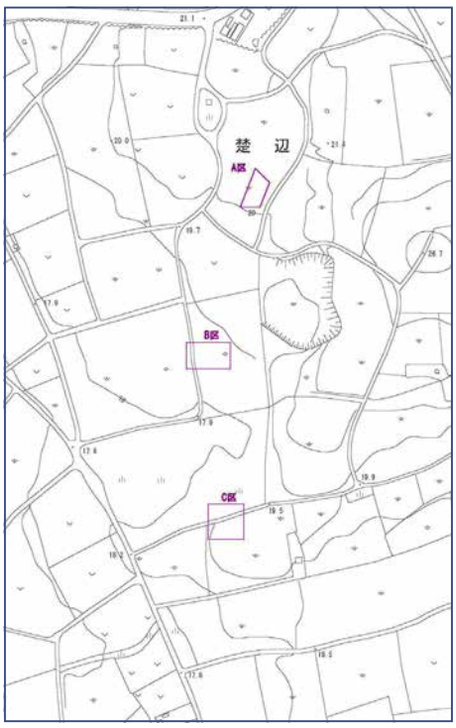
沖縄防衛局が計画しているトリイ通信施設内における道路建設等工事に伴って、楚辺親見原遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を行いました。

今回の発掘調査は、事前の試掘調査で遺跡の存在が確認されたＡ～Ｃ区の 3 地点で行った結果、土器や石器といった遺物が出土し、縄文時代の土坑や近代の窯跡などの遺構が確認されました。

調査成果

縄文時代：Ａ区とＢ区では谷に堆積した遺物包含層が確認され、Ｃ区では土坑などが確認されています。遺物は縄文時代後期～晩期の土器、石鏃（せきぞく）や石斧（せきふ）、磨石（すりいし）や敲石（たたきいし）、台石（だいいし）といった石器や石材が出土しています。

近代：Ｃ区で窯跡を 1 基検出しました。窯跡は平面が径約 1 ｍの円形で、作業場と考えられる隅丸長方形の土坑が接続した形をしています。窯の内部には、窯を構築した際の工具の跡が残っていました。

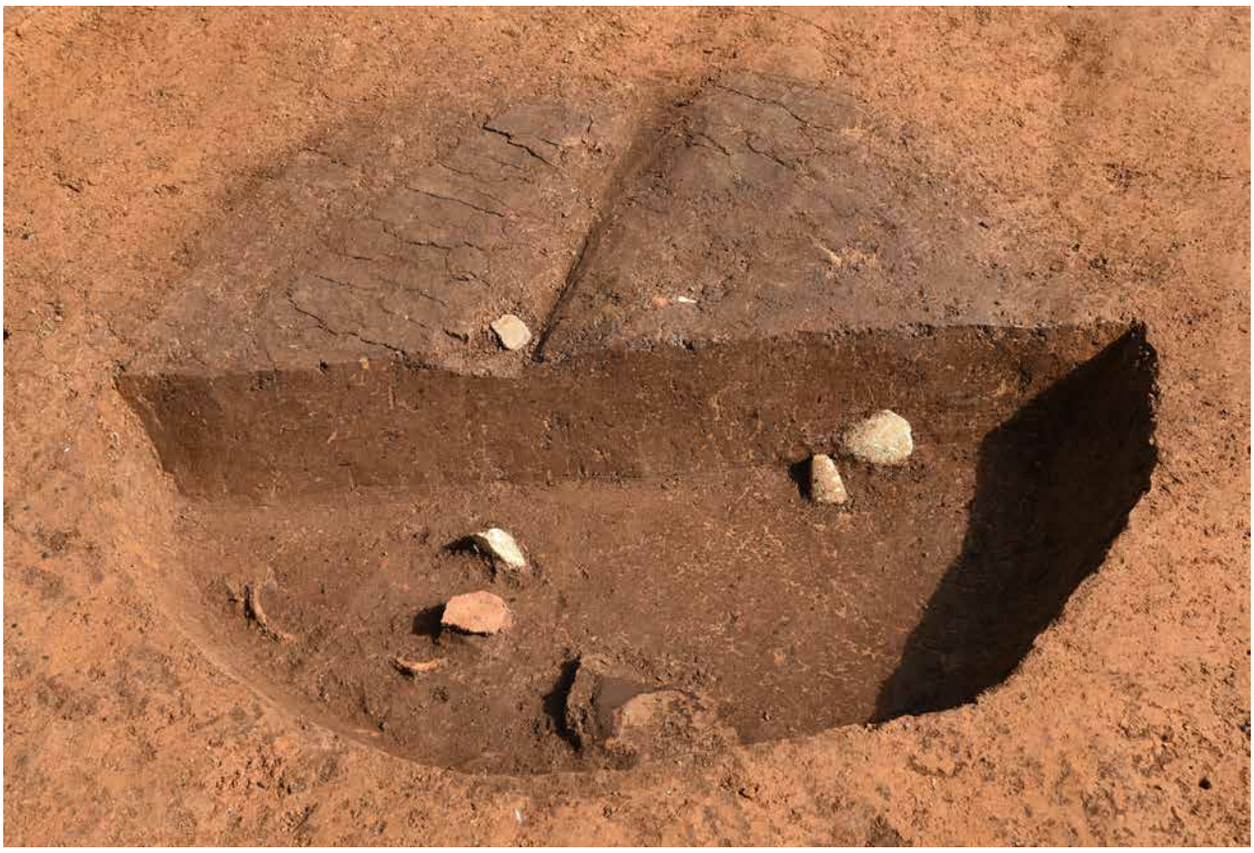


発掘調査箇所

Ａ区　谷の堆積状況（縄文時代）

Ａ区　土器・石材出土状況（縄文時代）

Ｂ区　土器･石材出土状況（縄文時代）



Ｃ区　土坑内土器・石器・石材出土状況（縄文時代）

C区　窯跡完掘状況（近代）

C区　窯跡内部の工具痕 (近代)

中城御殿跡（県立博物館跡地）

近世～近代

Data

事業名　県営首里城公園発掘調査　所在地　那覇市首里大中町１丁目１番地
調査機関　令和元年６月 25 日～令和元年 12 月４日
調査面積　約 179㎡

はじめに

中城御殿は次期国王となる王子の屋敷で、ここで生活を送るとともに執務を行っていました。名前の由来は、王子が琉球王国の跡継ぎになると中城間切を領地として与えられたことによります。御殿は当初、尚豊王代 (1621 ～ 40 年) に現在の首里真和志町（現県立首里高等学校敷地内）に建てられましたが、明治３(1870) 年に首里大中町に新しい御殿が建てられ、明治８(1875) 年に移り住みました。

新しい御殿へ移転した４年後の明治 12(1879）年に、廃藩置県により琉球王国は終わりを告げ、沖縄県となりました。それまで首里城などで暮らしていた国王をはじめとする王族は出ていかざるを得なくなり、中城御殿に移り住みましたが、華族令により、明治 18（1885）年にさらに東京へと移ることになります。その後も中城御殿は尚家の屋敷として残されていましたが、昭和 20(1945) 年の沖縄戦で破壊され、焼失しました。

戦後、中城御殿の跡地は 1950 年代には首里市役所や首里バス会社の敷地として使用され、昭和 40(1965) 年に琉球政府立博物館の建物が新築されました。その後、博物館は本土復帰に伴い沖縄県立博物館となり、平成 21(2009) 年に解体されるまで存在していました。

これまでの発掘調査

中城御殿跡の発掘調査は、県営の首里城公園整備事業の一環として、2007 年から行われています。これまでに建物の基壇や側溝、石畳、石積みの壁、階段などが見つかり、徐々に建物のつくりが明らかになってきています。

令和元年度の調査成果

令和元年度は、平成 29 年度に引き続き、上之御殿（いーぬうどぅん）と呼ばれる御殿内北西地区の調査を行いました。上之御殿は中城御殿の中でも標高の高い場所にあり、建物と共に庭園や御嶽などがある、特別な空間だったとされています。調査の結果、上之御殿を取り囲むと思われる石の壁や、建物の一部だったと考えられる石やモルタルが敷かれた床面、さらに下の層から中城御殿以前に使われていたと考えられるゴミ捨て場などが見つかっています。

米軍撮影航空写真 (画像上が北　1945 年、沖縄県公文書館所蔵より)

令和元年度調査区全景 (上方南側より撮影)

調査区１遺構検出状況 (西側より撮影)

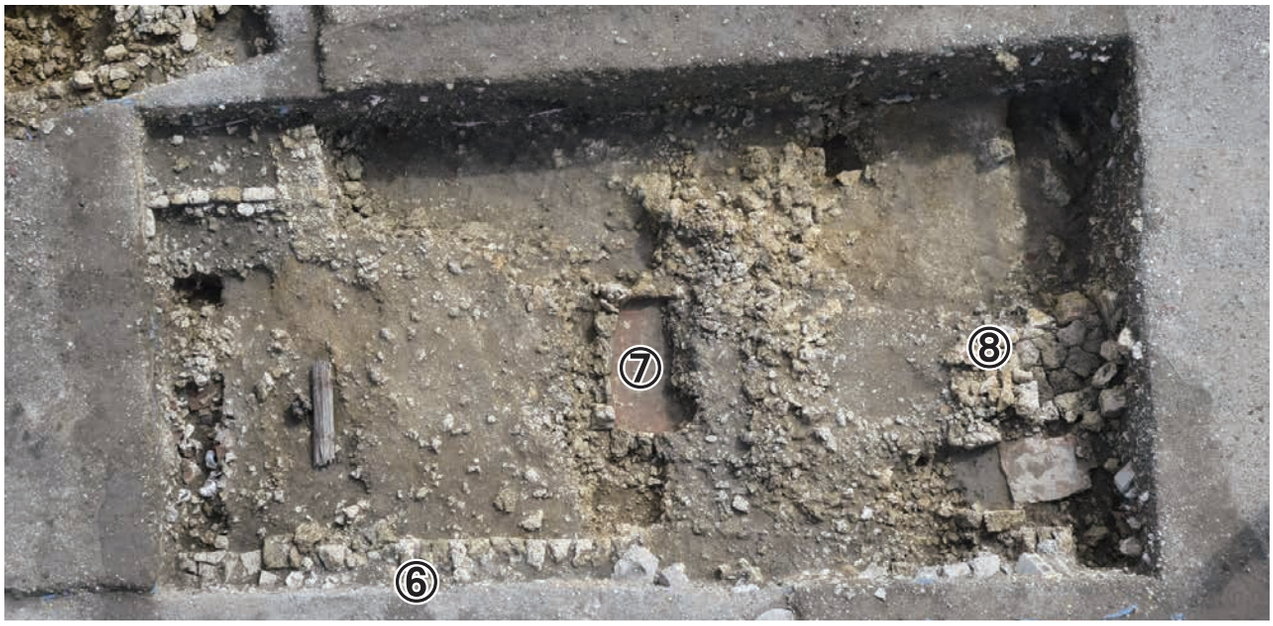
①（大岩）：周囲に階段が作られ、上の平場は御嶽として使用したとされています。

②（石畳）：③の石壁の上部に作られ、通路として利用されたと考えられます。

③（石壁）：南北に走っていて、上之御殿（いーぬうどぅん）を南北に仕切る壁と考えられます。調査では底の根石部分が見つかり、岩盤の上に壁が作られている状況が見られました。

④（石列１）：③の石壁に繋がる石の列で、曲がりながら北側に延びていきます。底付近の１、２列の石しか見つかっていないため、石列としていますが、本来③同様の壁だった可能性も考えられます。

⑤（石敷）：縁石と自然礫が平面上に敷かれており、通路の可能性が考えられます。



調査区２遺構検出状況（上方西側より撮影）

⑥（石列２）：上之御殿の内側の壁として機能していたと考えられます。

⑦（石組１）：中城御殿以前のゴミ捨て場と考えられる石組です。底には黒い土と共に近世～近代の遺物が溜まり、上に上之御殿を構成する層が堆積していました。

⑧（石組２）：四角に組まれた石積みに、モルタルが張られた床面が繋がっています。モルタルと石組の間には隙間が作られ、水を流す目的があったと想定されます。

石列 2(上方南側より)

石組 1(北より)

石組 2(上方南側より)

石組 2(西より)

普天間石川原（いしかわばる）遺跡

先史時代、グスク時代、近世～近代

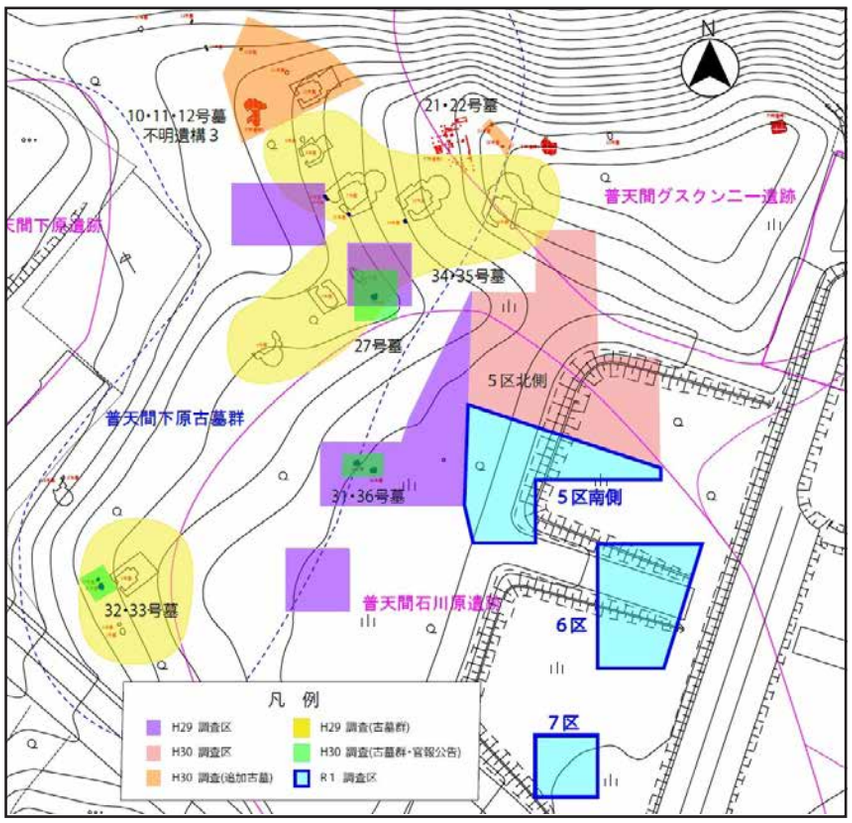
Data

事業名　東普天間住宅地区発掘調査　　所在地　宜野湾市普天間（キャンプ瑞慶覧内）
調査期間　令和元年７月 10 日～令和元年 12 月 13 日
調査面積　約 2,822㎡（調査区５区南側：1,322㎡、６区：1,100㎡、７区：400㎡）

はじめに

宜野湾市に所在する米軍基地キャンプ瑞慶覧内の住宅建設に伴い、現状のまま残すことができない埋蔵文化財の記録保存を目的とした緊急発掘調査を平成 29 年度より実施しています。東普天間住宅地区には平成 16 ～ 19 年度の試掘調査によって、普天間石川原遺跡、普天間グスクンニー遺跡、普天間下原（しちゃばる）古墓群の３つの遺跡が広がることが分かりました。これまでの調査から先史土器や中国産陶磁器といった遺物、耕作の可能性が伺えるグスク時代のピット列や鍬（くわ）跡のほか、亀甲墓・掘込墓などの古墓群、壕跡も確認され、同地区における先史時代から近世～近代にかけての利用状況が分かってきました。

令和元年度は普天間石川原遺跡にかかる調査区５区南側・６区・７区の調査を実施しました。その結果、先史時代、グスク時代、近世～近代の大きく３つの時期に相当する遺構・遺物が確認されました。



東普天間住宅地区　発掘調査実施箇所

調査成果

先史時代：埋没谷が確認されています（黄色破線）。谷は調査区５区南側から調査区６区にまたがって確認され、岩盤伝いに蛇行しながら、東側から西側に向かい傾斜していました。谷底には遺物が集中してみられる箇所があり、先史時代の土器や石器・石材などが出土しています。

５区南側　谷状況（東から）

６区　谷状況（西から）

６区　谷部の遺物出土状況（先史時代）

６区　土器の出土状況（先史時代）

グスク時代：遺構は溝状遺構、植栽痕や柱跡と思われるピット列が確認されています。遺物は中国産陶磁器やグスク土器が出土しています。

５区　ピット列（グスク時代）

５～７区　出土遺物（グスク時代）

7区　柱跡検出状況（グスク時代）

7区　柱跡断面（グスク時代）

近世～近代：遺構は溝状遺構や石列が確認されています。昭和 20 年に撮影された航空写真から、戦前の東普天間住宅地区周辺は普天間集落から安仁屋集落方面へ続く道路を中心に墓地・耕作地が広がっており、今回確認された溝状遺構の一部も写真と重なることから、道路に伴う溝や畑の区画であった可能性があります。出土遺物としては沖縄産や本土産の陶磁器が出土しています。

5区　遺構検出状況（北東から）

5区　道跡検出状況（近世～近代）

5区　溝状遺構完掘状況（近世～近代）

5区　遺物出土状況（近世～近代）

7区　遺構検出状況（近世～近代）

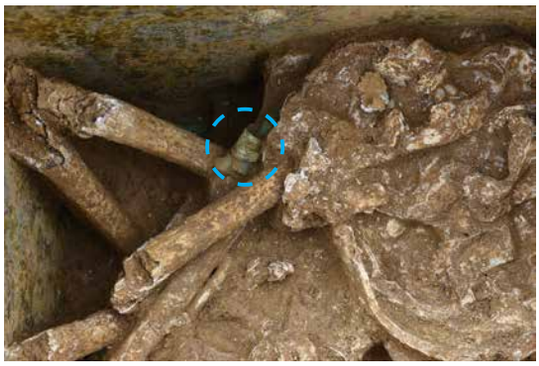
7区　完掘状況（西から）

普天間下原（しちゃばる）古墓群

普天間下原古墓群は平成 29 年度～ 30 年度にかけ、調査を実施しました。平成 30 年度に調査した 27 号墓の墓室内には蔵骨器が 4 基確認され、いずれも人骨が残っていました。このうち、 3 基は人骨の残りが良かったため、令和元年度に遺物図化業務を実施し、人骨や遺物の取り上げを行いました。蔵骨器内から出土した遺物は青銅製の指輪が多く、中には指の骨にはまったままの状態で納められていたものもありました。

27 号墓検出状況（北から）

27 号墓蔵骨器出土状況（古墓群）



蔵骨器内の遺物出土状況（古墓群）

指輪がはまった骨（古墓群）

伊佐上原遺跡群 A 地点・伊佐上原南遺跡

縄文時代晩期、グスク時代、近世・近代

Data

事業名　基地内文化財分布調査　　所在地　宜野湾市伊佐（普天間飛行場内）
調査期間　令和元年 7 月 12 日～令和 2 年 3 月 26 日
調査面積　520㎡

はじめに

基地内文化財分布調査は、沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地の中にどのような遺跡があるのかを把握することを目的としたもので、文化庁の補助を受けて平成９年度から実施しています。（平成 27 年度から中断していましたが、関係者の尽力により、昨年度から現地での発掘調査を再開しました。）普天間飛行場内では、現在までに 105 箇所の遺跡が確認されています。

今回の調査は、平成 15（2003）年度に実施した試掘調査によって発見された伊佐上原遺跡群Ａ地点について、より正確な範囲と性格を明らかにすることを目的に３か所のトレンチを設定し、確認調査を実施しました。

発掘調査の結果、近代、近世、グスク時代、縄文時代晩期の４つの時代の遺構や遺物を確認することができました。

調査の成果

近代：調査区一帯を除草したところ、地表面に石積の壁や溝、畑、祭祀場跡などがほぼ全面に残されていることが分かりました。これらの遺構は、今回の調査範囲外にも広がることが確認されたため、今後追加調査が必要です。

近世：石列や溝跡が、近代の畑跡の下から確認されました。溝を埋める土からは中国や日本、沖縄で作られた陶磁器などが出土しました。

グスク時代：柱穴を含む多数のピットや土坑がまとまって検出されました。当時この場所に集落があったことが想定されます。また、中国で作られた陶磁器や奄美群島の徳之島で作られたカムィヤキ、当時沖縄で作られたグスク土器なども出土しました。

縄文時代晩期：竪穴住居と考えられる遺構を検出したことから、縄文時代の集落があったことが分かりました。また、遺物は土器や石器などが出土しました。

今回の調査によって、伊佐上原遺跡群Ａ地点の遺跡の範囲が遺跡発見時の想定より広がることが分かりました。また、発見された遺構からは、縄文時代とグスク時代の集落があったことが確認されました。さらに、近世と近代の遺構が検出されたことで新たな遺跡の発見となりました。この遺跡は宜野湾市教育委員会と相談して、伊佐上原南遺跡と呼称することになりました。

また、佐賀県腰岳（こしだけ）産黒曜石片の出土や、縄文時代の竪穴住居と考えられる遺構が確認されるなど、学術的にも重要な成果を得ることができました。

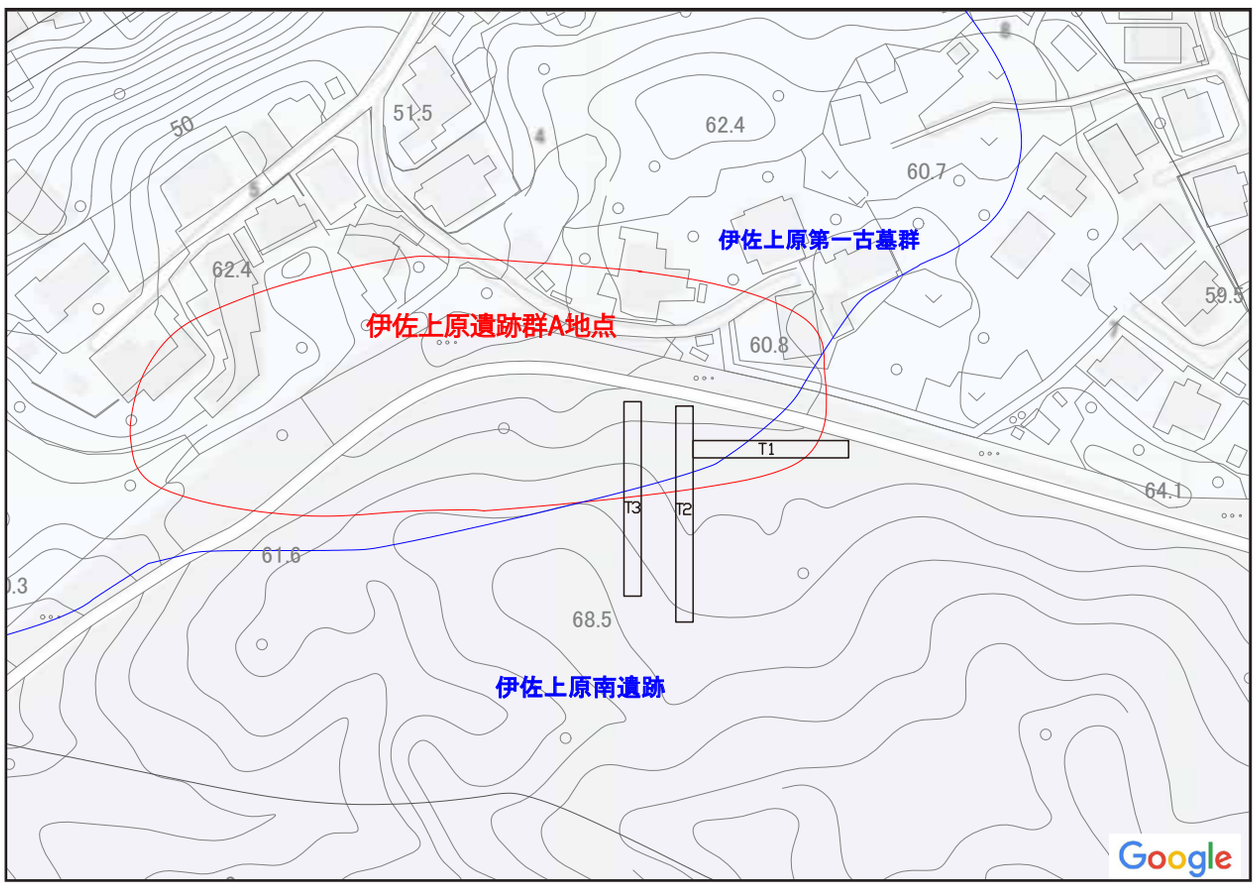


図１　発掘調査箇所

伊佐上原遺跡群 A 地点

【縄文時代晩期の遺構】

竪穴住居址 (T1 検出)

【グスク時代の遺構】

ピット群（T3 検出）

土坑（T1 検出）

ピット内　土器出土状況（T3）

伊佐上原南遺跡

【近世・近代の遺構】

近世の石列・溝状遺構（T2 検出）

近世の溝状遺構（T2 検出）

石積・溝（T3 検出）

祭祀場と考えられる遺構（T3 周辺）

キャンプ・シュワブ海域文化財分布調査

先史時代、グスク時代、近世・近代

Data

事業名　基地内埋蔵文化財分布調査　　所在地　名護市辺野古区他　キャンプ・シュワブ海域
調査期間　平成 29・30 年度（名護市は平成 26 ～ 30 年度）
調査面積　1,633,939㎡

はじめに

本事業は、普天間飛行場代替施設建設予定地である在沖米軍海兵隊基地キャンプ・シュワブ海域において、名護市教育委員会と共同で行いました。沖縄県では、過去に沖縄県全域の水中遺跡・沿岸遺跡の分布調査を実施した経験がありますが、今回のような基地建設という広域な開発に伴う水中遺跡の有無を確認するための潜水調査は初めての試みでした。実際の調査では GPS を駆使し、スノーケル、スクーバ、音波探査と様々な手法を用いて進めました。

調査内容

調査区を海岸エリア、護岸建設海域エリア、辺野古側海域エリア、大浦湾側海域エリアに分け、それぞれ水深や海底の環境に応じて海岸踏査（海岸踏査エリア）、スノーケル調査（主に辺野古側海域）、スクーバ調査（主に護岸建設エリア、大浦湾側海域エリア）、音波探査（大浦湾側海域）を実施しました。

海底には詳細な地形図が存在しないため、潜水中は自分が何処にいるのかを把握することが困難です。また、せっかく遺物を発見してもその遺物が海底の何処にあるのかを記録することも難しい状況です。このため、今回は海上に浮かべたブイに GPS を設置し、そのブイを海底からロープで牽引することによって潜水調査の軌跡や遺物の位置情報を記録しました。

調査成果

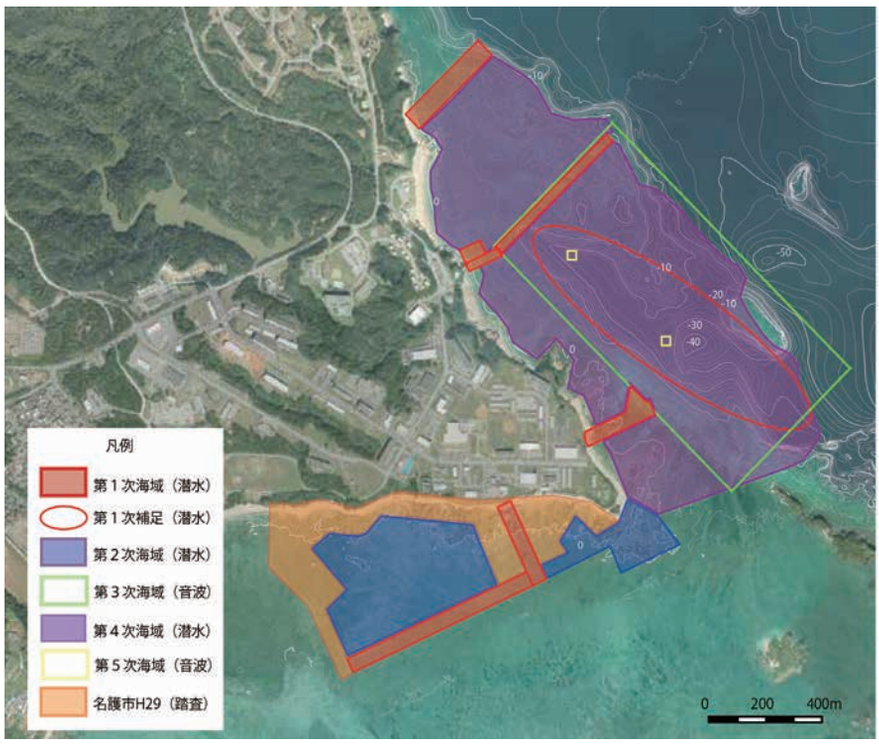
名護市が実施した海岸踏査では大山式土器 (縄文後期)、石器、石錘、石製品、陶質土器、陶器、磁器、碇石など様々な時代の様々な遺物が確認されました。特に、碇石という船の停泊に必要なイカリのパーツが確認されたことは、実際にこの海域に船が停泊していたことを示唆しており、重要な発見でした。

広大な海域を対象としたスノーケルとスクーバ潜水調査では、多くの様々な遺物が確認されました。その中には、現代の沈没船、生活用具、重機の部品等にはじまり、軍事基地がある海域らしく、砲弾や薬莢、弾丸ケース、キャタピラ等の軍事的な様相を帯びているもの、民俗資料と呼んで良いような用途不明の人工品もありました。

厚い土砂が堆積していることから潜水による目視調査では遺跡の有無を確認することができないと判断した海域では、最先端技術の音波探査を実施し、海底下５ｍほどに何らかの物質が埋没している反応を得ることができました。

結論として、今回の調査では緊急発掘調査の対象となるような水中遺跡は確認されませんでしたが、これまで実施したことがない様々な水中調査手法について検討し、現地で経験を積むことができました。このことは、沖縄県における今後の水中遺跡の調査手法の発展に大いに役立つものとなるでしょう。

キャンプ・シュワブ海域（撮影：2018 年 10 月 3 日）



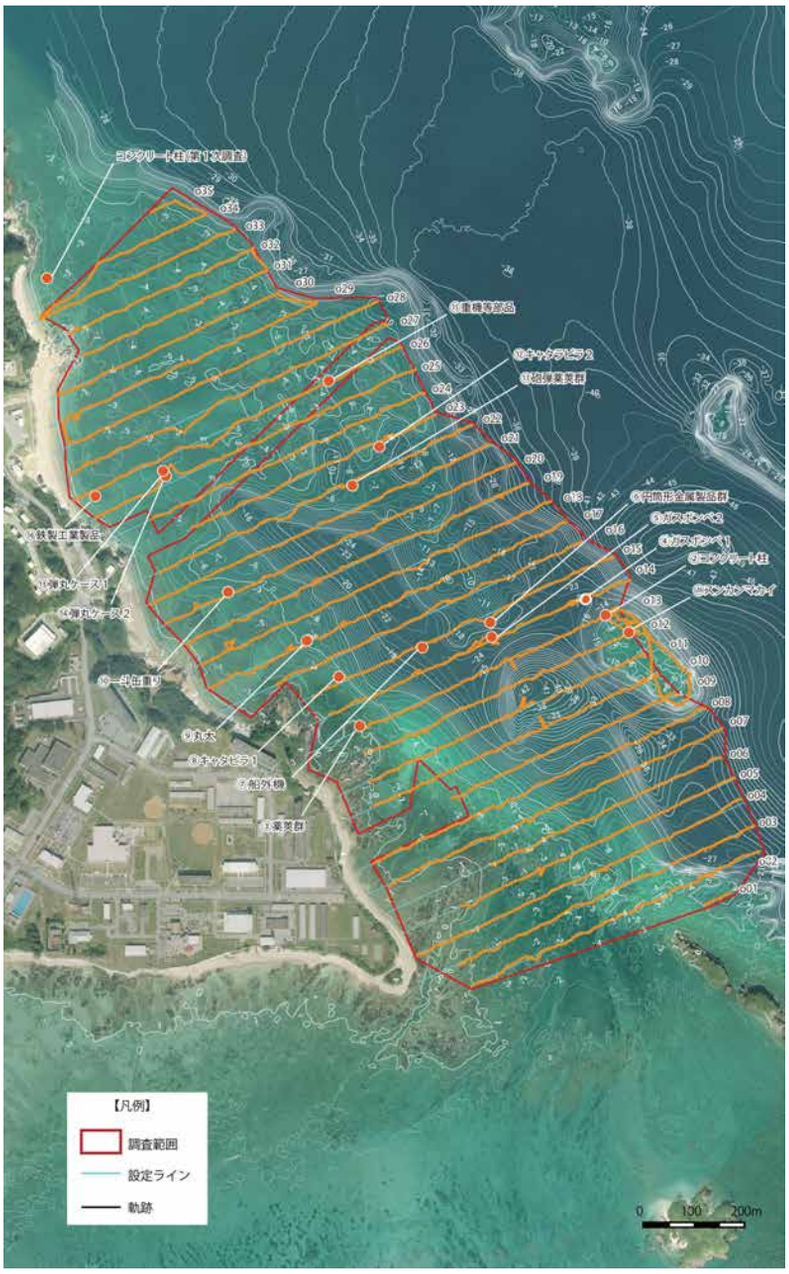
調査範囲と進捗

名護市踏査軌跡と確認された遺物の位置

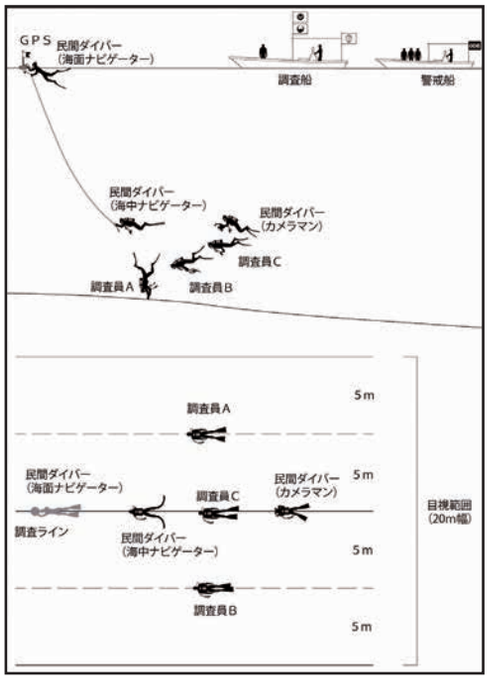
試掘調査に利用したモズクポンプ

モズクポンプを利用した海底での試掘調査
砂を吸い取っている。海底で大山式土器 (縄文時代) が発見されたことから、包含層の有無を確認するために実施。

海岸踏査回収遺物、写真一番奥が碇石



大浦湾側海域での潜水調査の軌跡と確認された遺物
あらかじめ GPS に 50 mピッチの調査予定ラインを設定しておき、
そのラインに沿って海底の目視調査を実施。

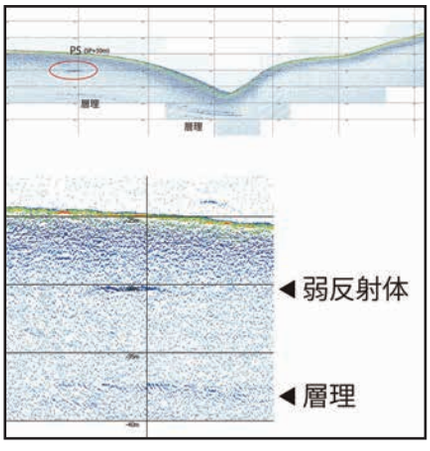


大浦湾側海域での調査フォーメーション
海面には GPS を設置したブイと GPS で調査ルートを導く海面ナビゲーターがおり、海底には海面のナビゲーターと繋がった水中ナビゲーターがいる。調査員は水中ナビゲーターの進む方向に合わせて海底面の遺物の有無確認をする。

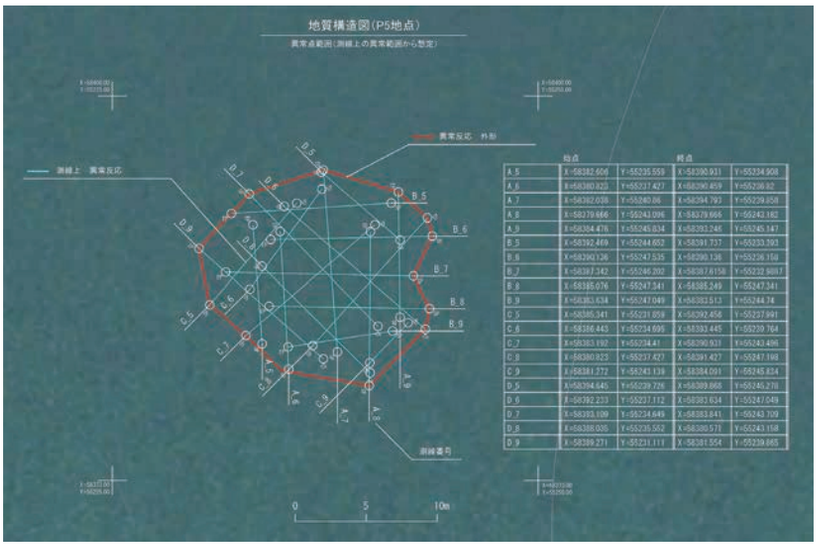
海底で確認されたキャタピラ

海底で確認された砲弾薬 莢（やっきょう）

詳細音波探査の航跡



音波探査の成果 (P5)



P5 の反応範囲

県内出土遺物保存処理

Data

目　的　脆弱な出土遺物の保存処理　　期　間　令和元年 5 月 24 日～令和 2 年 2 月 29 日
点　数　18 点　　時　代　近代

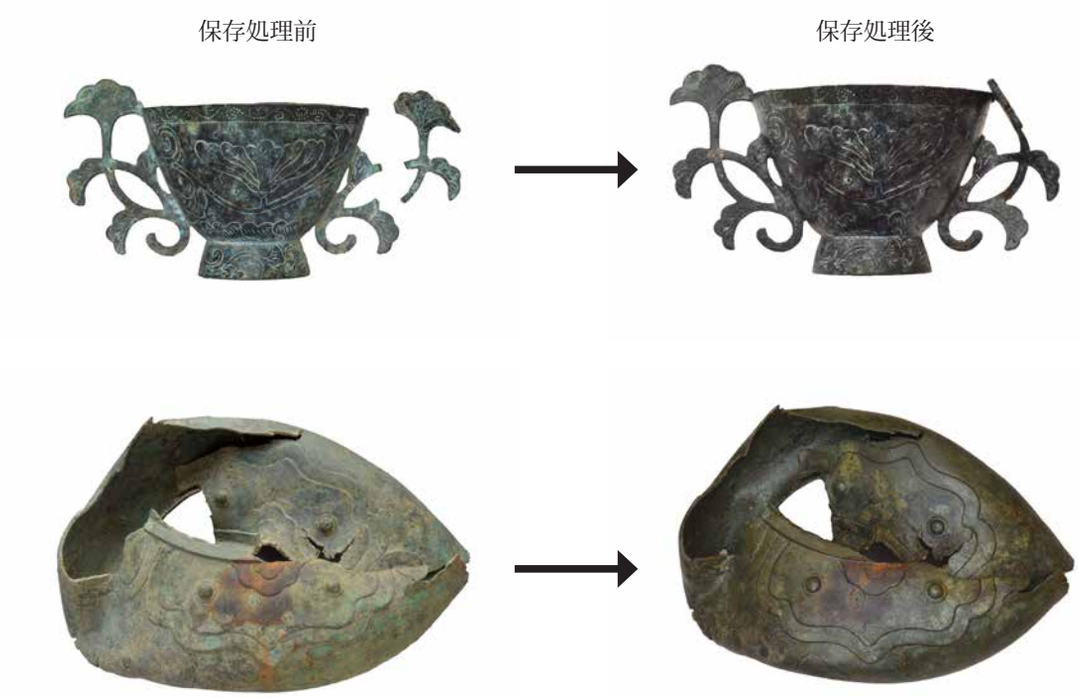
はじめに

沖縄県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行って出土した遺物の中には、金属製品や木製品、石造物などの時間とともに劣化していく材質のものが含まれます。この事業は、これらの遺物について長期的な保存や公開等に活用するため、保存処理を行っていく事業です。

対象資料と成果

平成 31（令和元）年度は、中城御殿跡 (県立博物館跡地) から出土した金属製品 18 点の保存処理を実施しました。保存処理には専用の機材や薬品が必要なため、専門とする業者に委託しました。

専門的なクリーニングと化学的な保存処理を行ったことで、劣化への耐久性が増し、長期的な保存や積極的な活用ができるようになりました。保存処理後は、錆の進行を防ぐために、空気・水を通さない特殊な袋に無酸素状態で密封して保管しています（三菱（みつびし）ガス化学：RP システム）。



保存処理の作業過程

①クリーニング作業

②錆の安定化処理 (BTA 含浸)

③錆の安定化処理 (脱水作業)

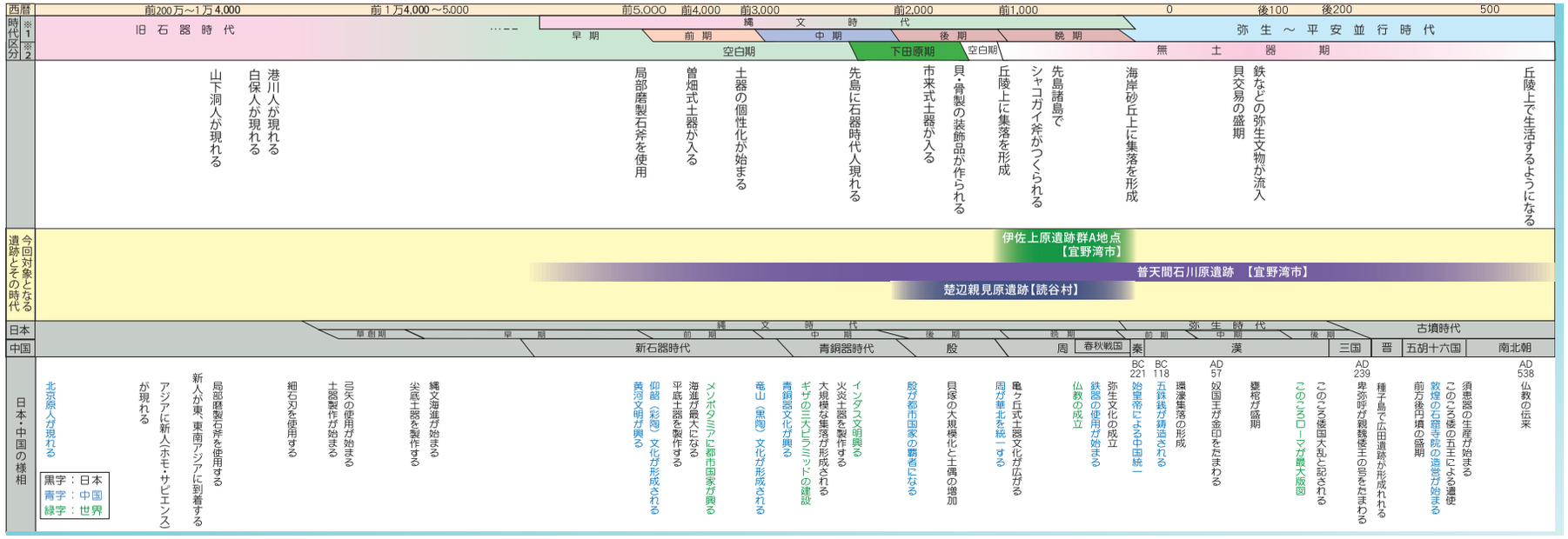
④樹脂含浸

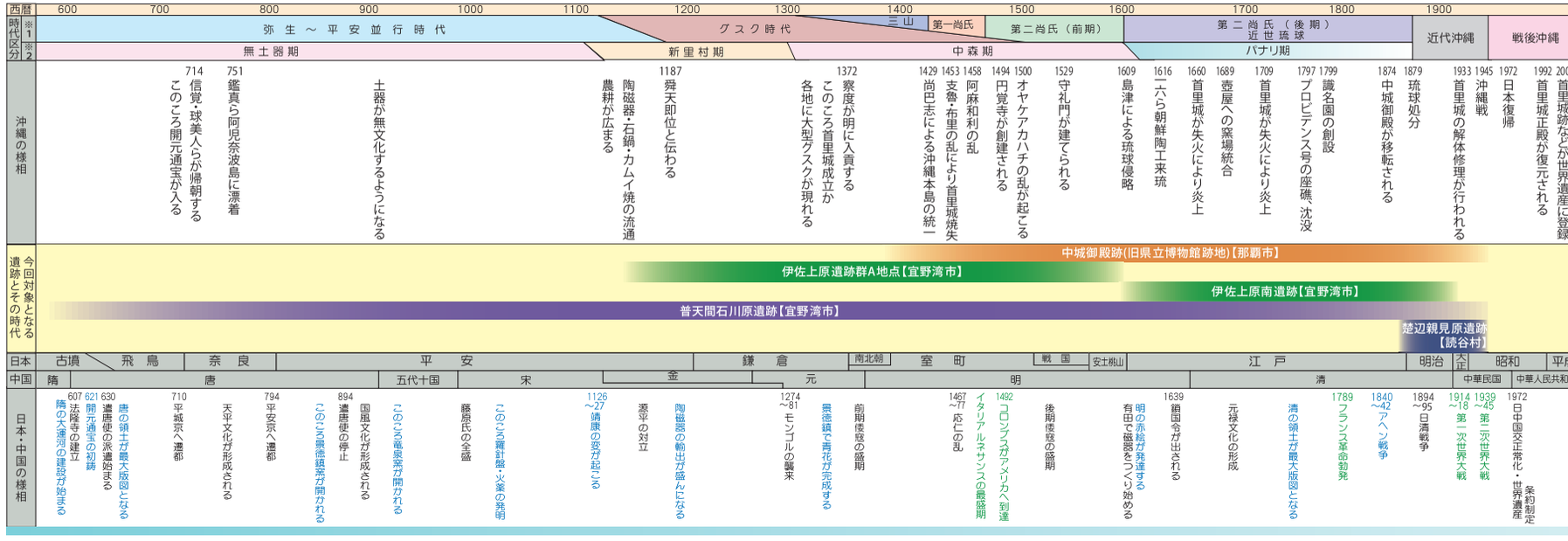
⑤接合作業

⑥補填作業

沖縄歴史年表

※１…沖縄本島時代区分　※２…宮古・八重山諸島時代区分





発掘調査のきっかけ（契機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（契機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的な手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

発掘調査は、大きく「学術調査」と「行政調査」のふたつに分けることができます。

「学術調査」とは、大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査で、学術的な目的意識（研究テーマ）を持って取り組まれます。

一方、「行政調査」とは、行政機関（教育委員会など）がおこなう発掘調査で、その契機や原因によって大きく３つに分けることができます。

まず、遺跡（埋蔵文化財）の適切な保護を目的とし、その所在・内容等を把握するための調査があります。

次に、保存・活用のための発掘調査があります。重要な遺跡の評価をおこなうための調査や、史跡指定された遺跡の整備・活用のために行われる調査も含まれます。

最後に、記録保存のための調査があります。この調査は、開発側との調整によって、現地保存ができなくなる遺跡について、開発に先立ち発掘調査をおこなうものです。この調査によって得られた記録類は、消滅した遺跡に代わって、遺跡の内容を後世に伝えるものとなります。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりがありません。発掘調査がおこなわれた遺跡は二度と元に戻らないわけですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては発掘調査を実施している市町村教育委員会、
若しくは以下にお問い合わせください。

○沖縄県教育庁文化財課　記念物班　埋蔵文化財担当　　TEL 098-866-2731
○沖縄県立埋蔵文化財センター　調査班　　TEL 098-835-8752

関連講座のお知らせと、注意事項

第 84 回文化講座『発掘調査速報 2020』

日時 : 令和 2 年 8 月 29 日㊏　　14:00 ～ 15:30(受付は 13:30 から)

会場 : 当センター研修室　　講師 : 当センター職員　　定員 :50 名

募集期間 :8 月 25 日㊋～ 8 月 28 日㊎　※定員に達し次第、締め切り

応募方法 : 電話受付のみ (9:00 ～ 17:00 まで)

予約連絡先 :098-835-8752(調査班まで)

※今回の関連講座は新型コロナウイルス感染症予防のため、電話での事前予約制とさせていただきます。

注意事項

受講の条件

〇「健康状態申告書」の提出

〇マスク着用

※「健康状態申告書」は、事前に当センターホームページからダウンロード、印刷し、ご記入の上ご持参ください。

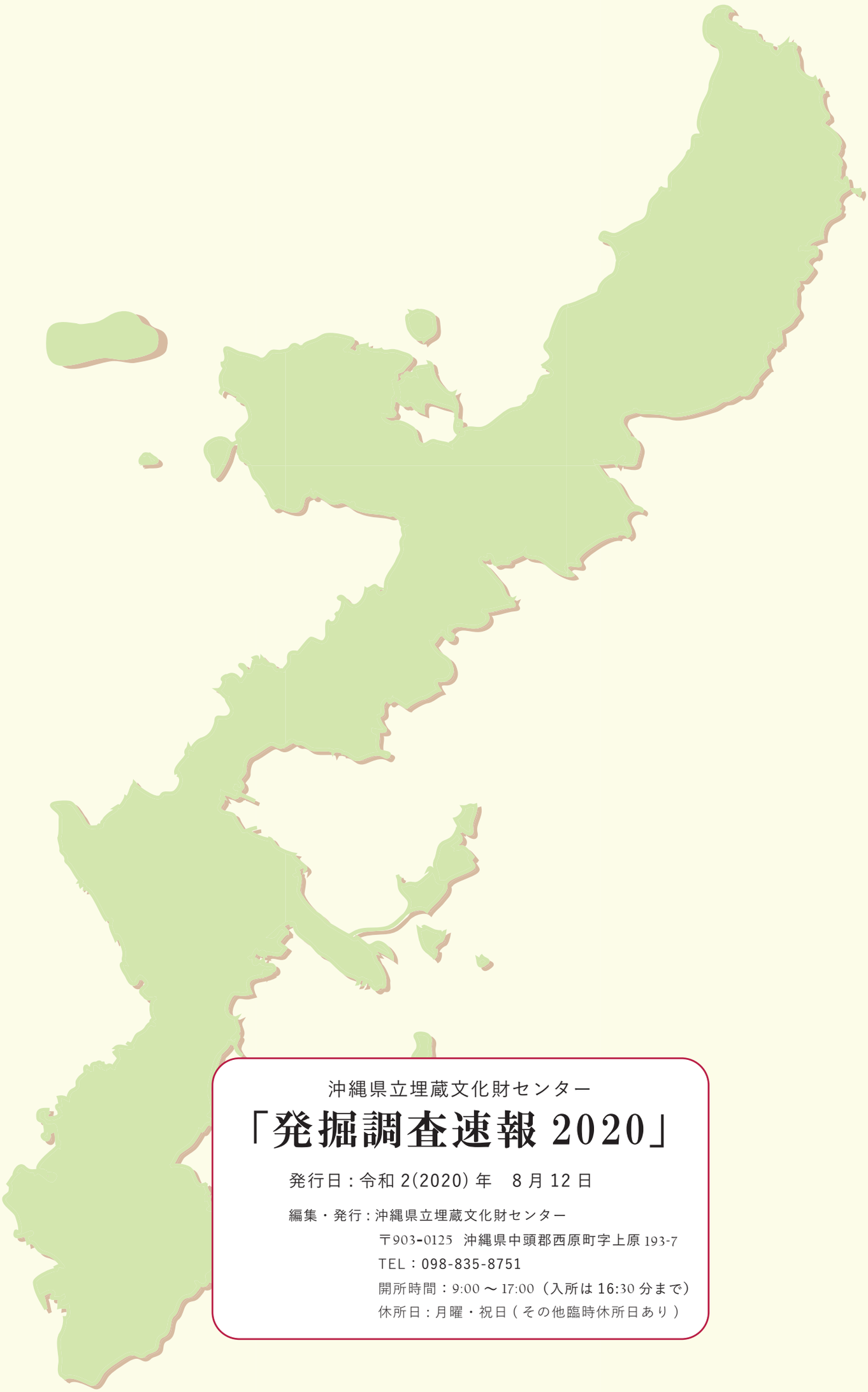
当日受講をお断りするケース

〇当日の体温が 37.5 度以上ある。

〇風邪の症状がある。

〇 14 日以内に、発熱や感冒症状で受診や服薬をした。

〇 14 日以内に、感染拡大のある地域や国に訪問歴がある。



沖縄県立埋蔵文化財センター

「発掘調査速報 2020」

発行日：令和 2(2020) 年　8 月 12 日

編集・発行：沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL：098-835-8751

開所時間：9:00 ～ 17:00（入所は 16:30 分まで）

休所日：月曜・祝日（その他臨時休所日あり）